

はじめに

地球規模の気象観測や数値モデルの高度化等により気象予測の精度向上が図られている。一方、多くのダムでは、実績の気象・水象情報に基づく経験的な手法により洪水調節や各種用水の補給を実施しており、こういった最新の予測情報を活用して高水管理・低水管理を行う環境が十分に整えられていないのが現状である。

本研究は、内閣府総合科学技術会議の重点プロジェクトに指定されている「地球規模水循環変動イニシアティブ」の一環として、気象庁の協力のもと進めているものであり、近年の気象変動傾向から発生が懸念される計画規模を超過する洪水や渇水をも視野に入れた水管理の高度化に資する技術開発を行うものである。このためには、高精度の降水予測情報に基づいた確度の高い短期・長期の流出予測がなされることがまず前提と考えている。

本報告書では、洪水時のダム管理に焦点をあて、気象庁が実施している予測雨量と地上雨量の比較を行うとともに、短時間の予測雨量を用いた流出予測シミュレーションを行い、現状の降雨予測情報の高水管理への適用性について考察する。

平成 16 年 12 月